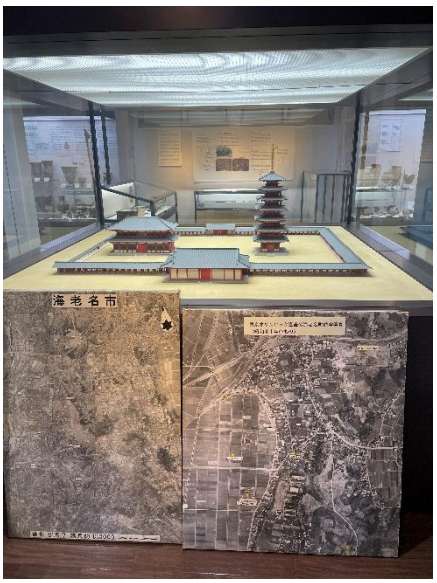
第１１５回大江戸探索会（海老名界隈）

海老名市は神奈川県中央部に位置しているが、隣の厚木市が大山詣の大山道宿場町として発展、県央部の中心都市となったのに対し、同じ小田急線と JR 相模線の駅のある海老名はこれまで小田急線から相鉄線にて横浜へ出る乗換駅との印象であった。しかし海老名起点とした相鉄・JR 直通線と相鉄・東急直通線が開通し、首都圏への新しい鉄道ネットワークが形成されると海老名の印象が一変。今後の飛躍的発展が期待されている。



温故館に展示の相模国分寺模型

他方、奈良時代の海老名は 8 世紀半ばの聖武天皇の「国分寺建立の詔」によって七重塔、金堂などの大伽藍を有する相模国分寺および相模国分尼寺（現在は国指定の史跡）が建てられた。今回は総勢 16 名、これらの史跡を訪ね、隣接する温故館で相模国分寺伽藍の復元模型を前に学芸員から詳しい説明を受けた。

1/3 スケール七重塔

参加者集合写真

先ずは駅前の海老名中央公園内にある高さ約 65m、1/3 スケール国分寺七重塔（市政２０周年記念モニュメント）の前に集合し、写真撮影。続いて、現高野山真言宗相模国分寺をお参りして重要文化財指定の梵鐘を見学し、温故館へ移動。学芸員の説明によると、相模国分寺は西に大山を望む相模川形成の河岸段丘上に立地し、東西 240m、南北 300m と大規模。法隆寺形式の伽藍配置で関東には二か所しかなかった。史跡として保存されている七重塔跡、金堂跡にてその大きさを実感。次いで真北に位置する相模国分尼寺跡に移動して往時を想像。その後、海老名駅に戻り、恒例の反省会にて喉を潤し、解散した。

（飛田悦男・記）